

金沢大学キャンパスマスタープラン 2010 ダイジェスト版

—地域と世界に開かれた個性輝くキャンパスづくりのために—



平成 23 年 3 月

金沢大学キャンパス整備委員会
キャンパスマスタープラン 2010 策定作業部会

1

キャンパスマスタープラン 2010 の目的と基本目標

1-1 キャンパスマスタープラン 2010 の目的

金沢大学キャンパスマスタープラン 2010（以下、「マスタープラン 2010」という。）は、金沢大学憲章に掲げる「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」にふさわしいキャンパス環境を創出するため、その基本的な方針を定めることを目的とする。

マスタープラン 2010 は、中長期的な視点に立ち、今後 15 年間程度の範囲内で、既存資産の有効活用と新たな施設・環境整備並びに管理・運営の道筋を示すものとして、アカデミックプランや運営戦略に基づき策定する。

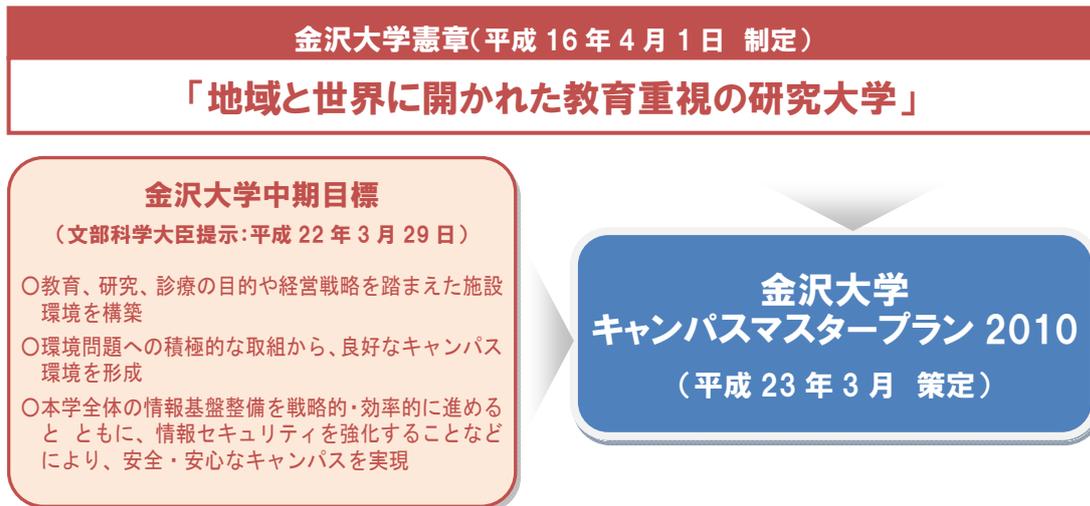


図 アカデミックプランとキャンパスマスタープランの関連性

1-2 キャンパスマスタープラン 2010 の基本目標

金沢大学における教育研究の改革と社会の要請に応え『地域と世界に開かれた個性輝くキャンパスづくり』を実現するため、以下をマスタープラン 2010 の基本目標として掲げる。

1) 人と知のキャンパス

金沢大学は、土地及び施設の確保と効果的運営を行い、その質と価値の向上をはかり、知の創成と人材育成を促すキャンパスの創出を目指す。

2) 開放のキャンパス

金沢大学は、立地する「環状大学都市金沢」の特色を活かし、学内外の有機的な連携をはかり、地域と世界に開かれたキャンパスの創出を目指す。

3) 個性のキャンパス

金沢大学は、金沢城、四高の遺産、角間の里山、宝町の並木など、古都金沢の景観美をキャンパスの魅力向上に活かし、個性輝くキャンパスの創出を目指す。

4) 交流のキャンパス

金沢大学は、さまざまな交流に応える施設と屋外環境の整備充実をはかり、学内外、多様な文化、知、人相互の活発な交流を促すキャンパスの創出を目指す。

1) 施設の配置と利用状況

北溟寮、小木地区の宿泊施設や辰口地区の共同研修センターは、利用率の向上をはかる必要がある。また、共用スペースは、教職員、学生等の交流や教育・研究の一層の活性化をはかるためのものであり、使用範囲の見直しにより生じた空きスペースなども活用し、より一層、確保する必要がある。さらに、新たなカリキュラムやプロジェクトに対応したスペースや施設の確保にあたっては、スペースチャージの拡充も併せ検討し、効果的な運用をはかる必要がある。

2) 施設の保全性

各キャンパスの施設・設備の劣化状況に応じた大規模改修や耐震性能の劣る施設の機能改善を計画的に推進する必要がある。また、現状の機能を維持するためには、経年劣化を予防する主要仕上げや設備等の定期的な保守点検、修繕、清掃等の維持管理の継続が重要である。特に、角間キャンパス、平和町キャンパスは、今後、施設・設備の大規模改修や更新が同時期となるため、段階的な整備が必要であり、宝町・鶴間キャンパスは、附属病院再開発整備計画に基づく既設建物のとりこわし、駐車場整備など基幹環境整備の継続が必要である。

3) 施設の安全性・利便性

いずれのキャンパスにおいても、介助がなくてもできるだけひとりでキャンパス内の移動を可能とするバリアフリー化の推進が必要である。また、案内表示は、多言語表記が必要である。

4) 屋外環境

現状の緑地を適切に保全するためには、継続的な維持管理を行うことが重要である。また、法面等での緑化活動をさらに推進する必要がある。駐車場は、有料化を含めた運営の見直しや必要台数に応じた整備を行う必要がある。さらにさまざまな交流にえられるよう、学生や市民も利用しやすく交流・憩いの場となるキャンパス広場や緑地の環境整備など屋外環境の快適性をより一層、向上させる必要がある。

5) 里山

教育・研究や市民学習の場として活用するため、また、自然環境保全、二酸化炭素の吸収による環境負荷の低減の面からも、全学的な活用と保全体制を構築する必要がある。

CO2排出量等について

消費エネルギーの低減は、引き続きエネルギーの使用状況等の情報公開とエコ意識の啓発を行うことが重要である。また、教育・研究・診療機能は確保しつつ、省エネ機器への転換等によるさらなる省エネ化、公共交通の利用促進や緑化推進などの対策を施し、環境に配慮したエコ・キャンパスの実現を目指すことが必要である。

各キャンパスの1㎡当たり年間CO2排出量の比較では、宝町・鶴間キャンパスのCO2排出量が角間キャンパスの約2倍となっており、他のキャンパスに比較して飛び抜けて多い。大学全体としてCO2の排出量を削減するためには、宝町・鶴間キャンパスの附属病院や医薬保健学域、角間キャンパスの理工学域、医薬保健学域からの排出をいかに抑えるかが重要な課題である。

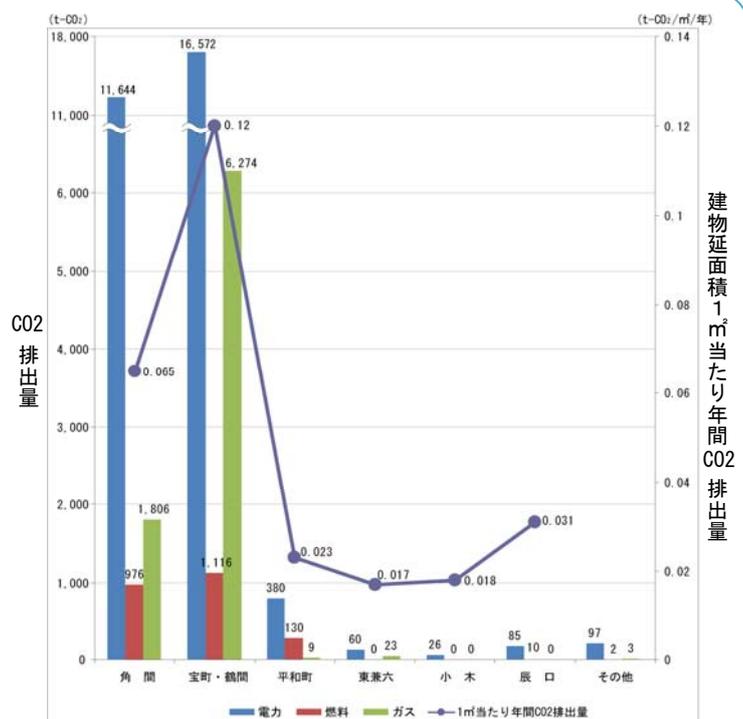


図 各キャンパスのCO2排出量状況図 (平成21年度実績)

3-1 求められるキャンパス像

『地域と世界に開かれた個性輝くキャンパス』

金沢大学は、創基 150 年という広い視野のもと、さらなる高等教育の充実と 21 世紀を切り開く学術研究を推進する。また、産学官連携、地域連携を図るとともに、東アジアの知の拠点として世界に向けて情報を発信し、北陸の基幹大学としてはもとより、北陸医療圏の中核も成す総合大学としてのキャンパス像を目指す。

3-2 キャンパスのフレームワーク

1) 骨格

金沢大学は、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」として、地域との連携を図り、都市とキャンパスを結ぶ連携交流軸を設定し、空間的・機能的に連結する。また、総合大学として、各キャンパスの機能的かつ効率的利用が図られるようキャンパスネットワーク軸を設定する。

2) ゾーニング

各キャンパス内のアカデミックゾーンを有機的に連携し、多様化・学際化する学問の進歩に柔軟に対応できるゾーニング計画とする。多様な交流、各種管理・運営などのコアとなる施設等を配置するセンターゾーンは、機能を効率的・効果的に発揮できるよう、シンボル歩行軸（キャンパスの中心軸）の中央付近に配置する。

また、センターゾーンを中心とし、教育・研究、診療等の各ゾーンをクラスター状に配置し、まとまりのあるキャンパスの形成を図る。シンボル歩行軸には、ゲート及びアプローチ機能を持たせるため、メインエントランスゾーンを配置する。キャンパスの外縁部には、金沢の街並み景観との調和や緑多い自然環境、生物生息空間を保全するため、環境に配慮した緩衝ゾーンを配置する。

キャンパス内には、歩行・サービス・景観デザインの骨格軸としてシンボル歩行軸、また、屋内外のキャンパスライフを楽しむ小路として、人々が集散し、キャンパス内を行き来できるよう、フットパス（歩行動線）を適切に配置する。フットパスエリア内に基幹施設や広場を配置し、その外周にループする道路と駐車場や屋外体育ゾーン等を配置する。

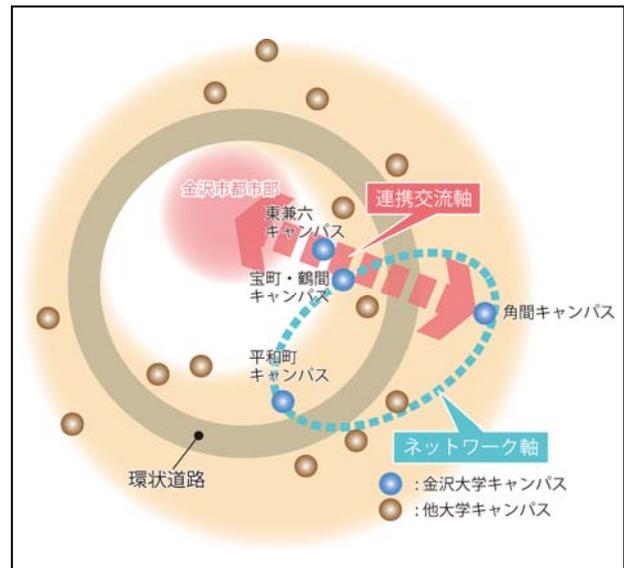


図 骨格軸

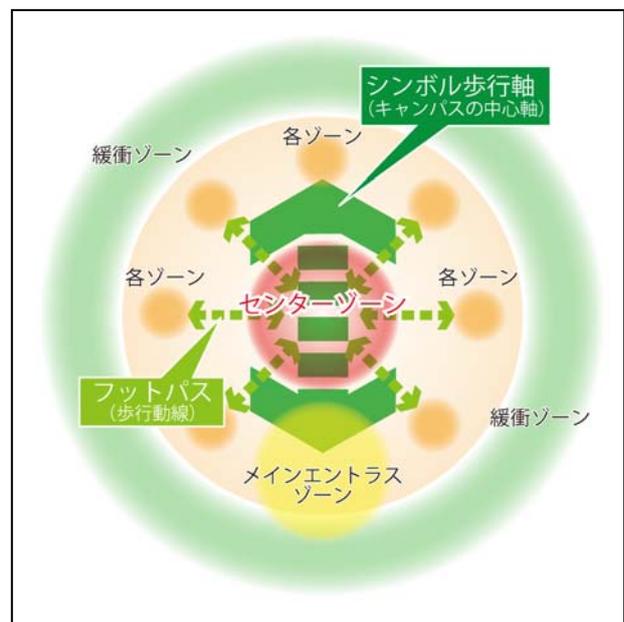
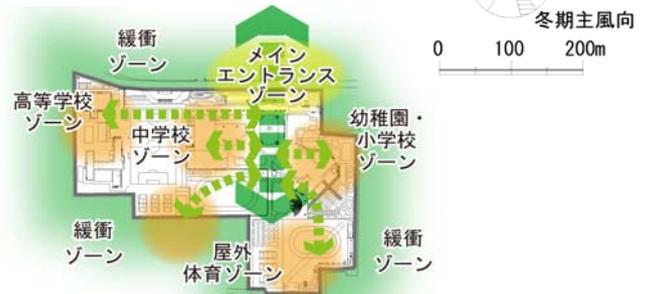


図 キャンパス内の骨格及びゾーニング

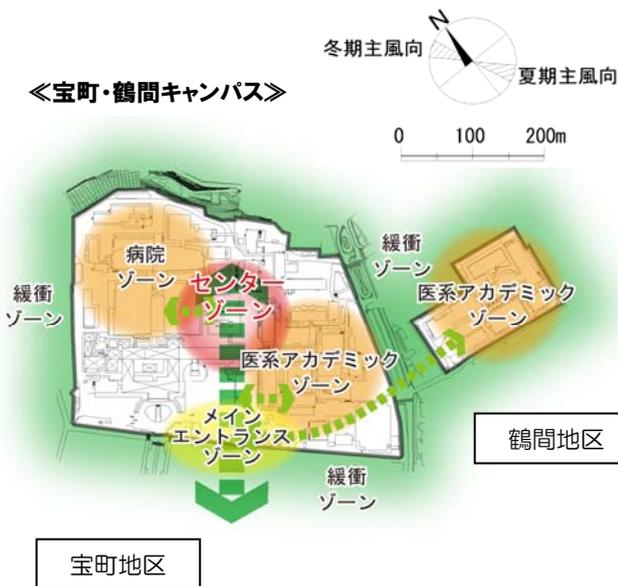
《角間キャンパス》



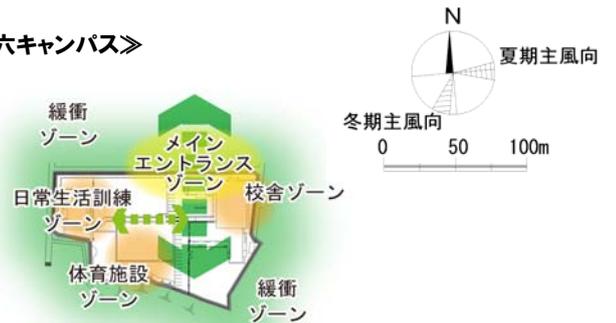
《平和町キャンパス》



《宝町・鶴間キャンパス》



《東兼六キャンパス》



4-1 キャンパスの整備方針及び計画

1) 教育・研究・診療基盤施設の整備充実

特色ある高等教育の場、世界水準の先進的学術研究を行う拠点、高度な医療を行う場として、教育・研究・診療基盤施設の計画的な整備充実をはかる。

- ・多様で高度、専門的な教育・研究ニーズに対応した教育・研究基盤施設の整備充実をはかる。
- ・イノベーションやプロジェクト研究環境の整備充実をはかる。
- ・ICTキャンパス環境の整備充実をはかる。
- ・地域医療拠点として診療基盤施設の整備充実をはかる。

2) 産学官連携、地域貢献、国際交流機能の拡充

連携交流軸やキャンパスネットワーク軸の実現により、学内外との有機的な連携をはかり、地域社会に貢献する。また、地域及び世界に向けて情報発信していくため、地域社会、外国人等との共生を支援する施設機能の拡充や既存施設の活用促進をはかる。

- ・地域貢献、産学官連携など、さまざまな交流に資する環境の充実をはかる。
- ・学生、留学生、研究者の生活環境、国際交流環境の充実をはかる。
- ・学生、教職員、研究者、患者、市民等の活発な交流を促す環境の充実をはかる。

3) 自然環境に配慮した快適空間の創出

人と自然が調和し共生するキャンパスを創出し、キャンパス整備と環境保全・景観保全の両立をはかる。

- ・キャンパス内の自然緑地や法面緑地の保全、緑化の推進に努めるとともに、教育・研究への積極的な活用を推進する。
- ・キャンパスの特色を印象づける空間プロポーショナルを最大限に活用し、魅力と風格あるキャンパス景観を創出する。
- ・大学で活動するさまざまな人々が、ゆとりや潤いを実感できる快適な空間を創出する。

4) 安全性・利便性の確保

定期点検や予防保全による機能維持をはかり、大規模老朽改修や耐震性能の強化を計画的に行う。また、広く開かれたキャンパスを目指し、誰もが使いやすく施設の機能が十分に発揮できるようユニバーサルデザイン化を推進する。

- ・駐車場や構内道路では歩車分離をはかり、構内移動の安全性を確保する。
- ・統一的なデザインによるキャンパスサインの充実をはかるとともに、主要な案内は多言語表記とするなど高い案内性を確保する。
- ・耐震性が不足する施設やインフラ施設・設備の防災性能の強化をはかる。
- ・インフラ施設・設備の老朽化等に対応した適時更新を行う。
- ・あらゆる人々が、できるだけひとりでキャンパス内の活動が可能となるようバリアフリー化を含めユニバーサルデザイン化を推進する。
- ・サークル活動施設等の安全性や利便性を高めるなど、学生支援施設機能の向上をはかる。
- ・グラウンドや体育館等、災害時の避難場所として活用可能な施設は、防災機能の充実をはかる。

5) 環境負荷に配慮したエコ・キャンパスの実現

環境負荷に配慮したマテリアル・フロー（エネルギー・資源や物質の流れ）を実現するため、インフラ施設・設備の更新と効率的運用を計画的に行い、サステナブル化を推進する。

- ・金沢大学環境方針に基づく環境配慮への取り組みを継続し、CO2 排出量のより一層の削減をはかるとともに、高効率機器への転換やインフラ施設・設備の更新を計画的に推進する。
- ・キャンパスの立地条件に適合した自然エネルギーの活用を推進し、地域環境への影響に配慮するとともに、地域のモデルとなる水準を維持する。
- ・公共交通の利用促進をはかるとともに、リサイクルの推進、角間の里山など CO2 吸収源の保全等の推進により、環境負荷の低減をはかる。
- ・ホームページなどを通してマテリアル・フローの推移を全学の教職員・学生に広く周知するなど、環境配慮意識の啓発を行い、環境に配慮したエコ・キャンパスの実現を目指す。
- ・キャンパスの整備にあたっては、「新省エネルギー法」「地球温暖化対策推進法」及び「環境配慮促進法」等、環境負荷低減のための諸法令の主旨を踏まえ、新たな視点として「建築物総合環境性能評価システム：CASBEE」という考え方に基づき、一層の環境負荷低減に努め、サステナブルキャンパスの構築を目指す。

4-2 キャンパスの利活用方針

1) 共用スペースの拡充と施設利用の活性化

施設等の有効活用を積極的に推進するため、全学共用スペース（共用スペース・共用研究スペース）を確保する。併せて、施設及び設備の使用料の徴収、スペースチャージの活用により、弾力的、効果的な運用をはかる。

また、部局間の共用、市民開放等を通して利用効率の向上をはかるとともに、利用頻度が少ない施設については、活用促進をはかるための方策を検討し、施設利用の促進をはかる。

さらに、学外団体等への施設利用の促進をはかる。

2) 増設用地の確保と将来計画用地の活用

組織再編に伴う施設の再整備などにおいて、キャンパス全体の統一的で柔軟な整備が可能となるよう、一定の増設用地や改築用地を確保する。

特に、角間キャンパスにおいては、里山の一部である将来計画用地を活用し、大規模な組織設置や産学官連携拠点施設の誘致などに対応が可能となるよう備えることとする。

なお、将来計画用地の開発にあたっては、里山の保全、教育・研究や市民学習活動等の継続を最優先に考慮し、開発がその区域の水循環と生態系に与える変動を最小限とする。

また、必要に応じ部局配置を入れ換えることも考慮するが、その際、教育研究診療活動に支障を生じさせないよう、配慮するものとする。

辰口地区の山林は里山に整備し、教育・研究への活用を推進するとともに、地域との連携をはかり社会貢献を進める。また、小木地区については、能登半島国定公園の自然環境を活かし、日本海域における臨海実験施設の拠点としての整備拡充をはかる。

3) 歴史的文化的建造物の保全と活用

四高の赤レンガ壁や金沢城など、金沢大学と古都金沢の歴史や文化、伝統をキャンパスデザイン等に活用する。

また、旧医学書庫及び門、旧石碑、記念樹等、歴史的遺産を移設し保全するとともに、オブジェやランドマークとして活用する。

5 計画実現に向けたマネジメント方針

キャンパスマスタープランを実現し、施設及び設備の運用・維持管理を持続的に行っていくため、戦略的なマネジメント方針を定める。

なお、施設及び設備マネジメントは、教育・研究・診療活動が行われるキャンパスの土地・建物・環境等を経営資源の一つとして捉え、快適かつ安全に維持・発展するために、右の3つの視点により、戦略的かつ効率的に実施する。

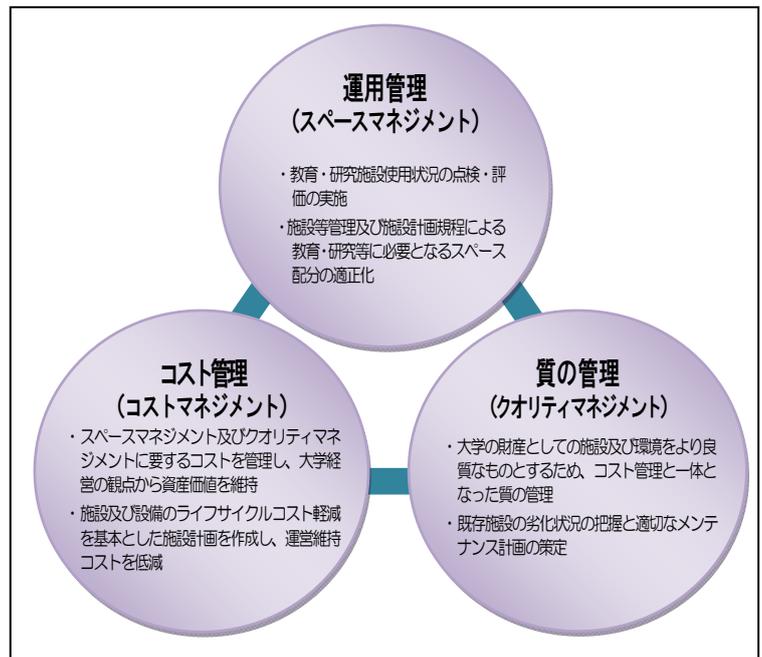


図 3つの視点による施設及び設備マネジメント方針

1) 実効性のある行動計画

適時的確な改修による機能低下の拡大防止、省エネルギー対策の早期導入、ライフサイクルコストの低減等を検討し、具体的な実現化プログラムを策定する。

また、共用・共同利用ルールの再確認と徹底化をはかり、適切な資産利用を目指す。

さらに、行動計画を実効性のあるものとするためには、実施財源の確保が極めて重要である。従来施設整備費補助金だけに頼った整備資金の調達だけでなく、産業界・経済界・地方公共団体などとの連携を強化し、寄付・自己収入・長期借入金・PFI事業など、多様な財源や自ら資金を生み出す仕組みを活用した整備に取り組むものとする。

実現に必要な所要額を的確に把握し、財源獲得の方策を含めて検討するとともに、年次計画を作成し行動する。

2) 施設及び設備の適正マネジメントの実施

キャンパスの持続的発展をはかるため、大学施設の性能評価システムやベンチマーキング手法を活用し、建設後の維持管理が適時的確に行われる手法を定め、PDCAサイクルにより確実に実施する。

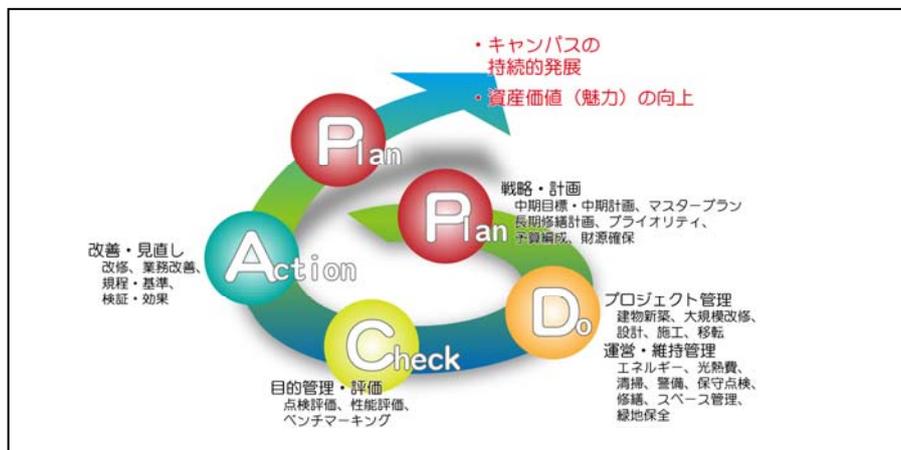


図 PDCAサイクル (スパイラルアップ)

金沢大学キャンパスマスタープラン 2010 ダイジェスト版

企画・編集：金沢大学キャンパス整備委員会、

キャンパスマスタープラン 2010 策定作業部会、施設管理部

発行者：国立大学法人 金沢大学

〒920-1192 金沢市角間町 kakuma-machi,kanazawa,920-1192 Tel.076-264-5111(代表)

http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_sisetu/index.htm

